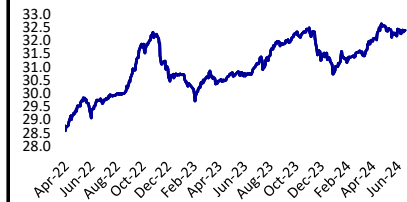
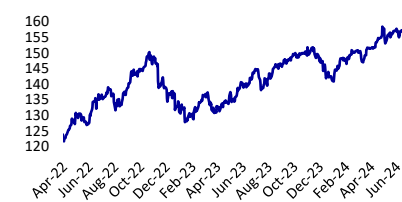


市場動向

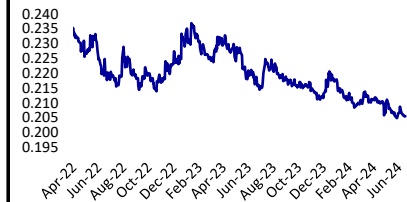
■USD/TWD



■USD/JPY



■JPY/TWD



■EUR/USD



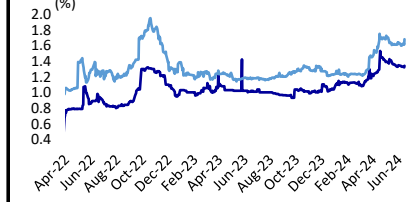
■USD/CNH



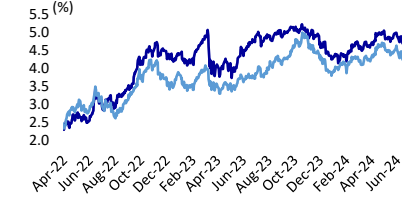
■台湾加権指数



■台湾国債利回り



■米国債利回り



先週の市場動向

■USD/TWD

先週のドル/台湾ドルは上昇。週初6/11は、前週末に発表された米5月雇用統計において非農業部門雇用者数並びに平均賃金が市場予想を上回る伸びを受けて、ギャップアップして32.300でオープン。外国人投資家による台湾株売りがまとまって見られる中、台湾ドル売りが優勢な展開となり32.40台前半まで上昇した。6/12は、米金利の高止まりを背景にドル買いが進み、一時32.430まで上昇。その後は外国人投資家による台湾株買いが見られた他、輸出業者による外貨売りも見られ、台湾ドルが上昇する展開となり32.30台後半まで下落した。6/13は、前日海外時間に発表された米5月CPIが市場予想を下回る軟調な結果となっていたことを受けて米金利が低下する中、ドル売りが優勢な展開となり一時32.284まで下落。その後は輸入業者による外貨買いや、海外投資資金送金が見られ、32.30台前半まで上昇した。6/14は、前日引け後の台湾中銀において前回のような利上げは無かったことから安心感が広がり、台湾ドル売りが優勢な展開となり32.40近辺まで上昇。しかしその後、台湾加権指数が史上最高値を更新する中、外国人投資家による台湾株買いが見られ、台湾ドル買いが進み32.30台前半まで下落した。最終的には前週比0.3%ドル高台湾ドル安の32.350で先週の取引を終了。週間の外国人投資家の株式買い越し額は357.6億台湾ドル。

■USD/JPY

先週のドル/円は上昇。週初6/10は156.65でオープン後、前週末の米雇用指標が堅調だったことを受けて米金利が高止まりする中、ドル買いが優勢な展開となり157円近辺まで上昇。6/11は、翌日にFOMCを控え、動意に乏しく157円台前半で揉み合いの推移。6/12は、海外時間に発表された米5月CPIが市場予想を下回る軟調な結果となっていたことを受けて、ドル売りが進み一時155.73まで下落。その後、FOMCにおいて年内利下げ見通しが1回へ引き上げられていたことを受けて、ドルが買い戻され156円台半ばまで上昇した。6/13は、海外時間に発表された米5月PPIが市場予想を下回る結果となっていたことを受けて、157円を挟み上値重く推移した。6/14は、日銀金融政策決定会合において政策金利据え置きと次回会合における債券購入額削減方針決定が発表されると、失望感が広がり円高ドル安の展開となり一時158.25まで上昇した。その後は、海外時間に発表された米5月輸入物価が

今週の見通し

■USD/TWD 予想レンジ：32.150-32.450

今週は上値の重い推移を見込む。FOMC会合において年内利下げ見通しは引き上げられたものの、米経済指標に落ち着きが見られる状況下、ドル買い余地は限定的となるであろう。一方、台湾加権指数は史上最高値を更新している他、月末にかけて輸出業者による外貨売りが見られる場合、台湾ドルが買われやすいであろう。

■USD/JPY 予想レンジ：154.00-158.00

今週は揉み合いの推移を見込む。今回の日銀金融政策決定会合においては特段政策変更等は行われなかったことから、目先は様子見姿勢が強まるであろう。

今週の予定

6/17 (MON)	
6/18 (TUE)	米5月小売売上高、米5月鉱工業生産
6/19 (WED)	
6/20 (THU)	台湾5月輸出受注、米5月新規住宅着工件数、米6月フィラデルフィア連銀景況感指数
6/21 (FRI)	日5月CPI

(Source) Thomson Reuters, Mizuho Bank

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。当資料に記載された内容は、事前連絡なしに変更されることがあります。投資に関する最終決定は、お客さまご自身の判断でなさるようお願いいたします。当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず、無断で引用、複製することを禁じます。